

# 小學讀本

杉浦重剛校閱  
井上蘇吉編

一

178  
4  
95

大日本教育書館			
六			二
六册	二號	五架	五函

K1208  
1

杉浦重剛校閱  
井上蘇吉編

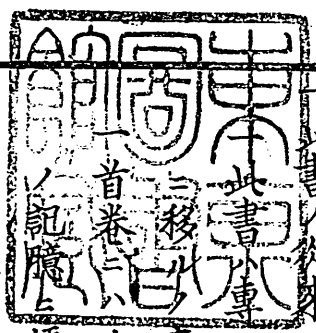
小學讀本

板權所有

澤屋藏版

小學讀本 明治二十年二月廿三日内務省交付トド

凡例



一 此書ノ從來ノ教科書ト趣ヲ異ニスルトコロヲ左ニ列記ス

一 此書ノ專ニ西洋讀本ノ精神ヲ採リ疎ヨリ密ニ入り易ヨリ難

ニ移ル意ニ基キテ編輯セリ

一 首卷ハイロハ四十七文字ヲ冠スル諸單句ヲ載セ以テ兒童

ノ記憶ニ便ナラシム

一 第一卷ニ於テハ畫ノ最モ少キ字ヨリ始メ簡單ナル文章中ニ

之ヲ用ヒ漸々畫ノ多キモノニ移ル第二卷ニ於テモ亦然リ

一 第三卷以下第五卷マデニハ都鄙ノ別ナク日用ニ缺クベカラ

ザル緊要ノ事項ヲ習得シ兼テ雅俗今古ノ諸文體ニ通ズルヲ

得セシム

小學讀本 凡例

一 凡テ本編ニ於テハ智育德育體育ノ説明ヲ古今ノ例ニ證シ就中忠孝彞倫ノ道ヲ教訓シ西洋理學ノ思想ヲ發揮シ及ヒ我邦ニ固有ナル尚武ノ風ヲ獎勵スル一ニハ最モ意ヲ注ギタリ

一 西洋ノ字母及ヒ數字ヲ挿入シタルハ近來西洋ノ學益開ケ到底洋學ニ從事スルニ非ザレバ高等ノ教育ヲ受クル一能ハザルヲ以テ茲ニ其端ヲ開キ以テ兒童ノ心ヲシテ漸ク洋學ニ向ハシムルノ一助トナスノミ然レモ學校ノ情況ニヨリテハ之ヲ授ケザルモ敢テ妨ゲナシ

一 續編ノ如キモ亦此旨趣ニ基キ不日編纂スベシ

明治十八年九月

編者識

# 小學讀本卷之一

杉浦重剛校閱  
井上蘇吉編

## 西洋文字

エビシー

H <small>エイチ</small>	A <small>エ</small>
I <small>アイ</small>	B <small>ビー</small>
J <small>ジェー</small>	C <small>シー</small>
K <small>ケー</small>	D <small>ディー</small>
L <small>エル</small>	E <small>イー</small>
M <small>エム</small>	F <small>エフ</small>
N <small>エヌ</small>	G <small>ジー</small>

小學讀本卷之一

ラ	ヤ	マ	ハ	ナ	タ	サ	カ	ア		V <small>ヴ井</small>	O <small>オー</small>
RI	YA	MA	HA	NA	TA	SA	KA	A		W <small>ダフリユ</small>	P <small>ピー</small>
リ	イ	ミ	ヒ	ニ	チ	シ	キ	イ		X <small>エツクス</small>	Q <small>キユウ</small>
RI	YI	MI	HI	NI	CHI	SHI	KI	I		Y <small>ワイ</small>	R <small>アール</small>
ル	ユ	ム	フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ		Z <small>ゼット</small>	S <small>エス</small>
RU	YU	MU	HU	NU	TU	SU	KU	U			T <small>テ井</small>
レ	エ	メ	ヘ	子	テ	セ	ケ	エ			U <small>ユー</small>
RE	YE	ME	HE	NE	TE	SE	KE	E			
ロ	ヨ	モ	ホ	ノ	ト	ソ	コ	オ			
RO	YO	MO	HO	NO	TO	SO	KO	O			

五十音

小  
學  
讀  
本  
卷  
之  
一

ワ

ヰ

ウ

エ

ヲ

ニゴリ

バ <sup>バ</sup> <sup>ダ</sup> <sup>ザ</sup> <sup>ガ</sup>  
BADA ZAGA

ビ <sup>ヂ</sup> <sup>ヅ</sup> <sup>ギ</sup>  
BI DI ZI GI  
JI JI

ブ <sup>ヅ</sup> <sup>ズ</sup> <sup>グ</sup>  
BU DU ZU GU  
ZU

ベ <sup>デ</sup> <sup>ゼ</sup> <sup>ゲ</sup>  
BE DE ZE GE

ボ <sup>ド</sup> <sup>ゾ</sup> <sup>ゴ</sup>  
BODO ZO GO

ハンニゴリ

パ

ピ

プ

ペ

ポ

十二月

一月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

十二月

十干

甲 <sup>きのへまの</sup> 乙 <sup>ひのへ</sup> 丙 <sup>ひのとつちのへつちのと</sup> 丁 <sup>かのへ</sup> 戊 <sup>かのとみづのへ</sup> 己 <sup>かひの</sup> 庚 <sup>かひの</sup> 辛 <sup>かひの</sup> 壬 <sup>かひの</sup> 癸 <sup>かひの</sup>

十二支 子ね 丑うし 寅とら 卯う 辰たつ 巳み

午うま 未ひつど 申さる 酉とら 戌いぬ 亥あ

四季 春はる 夏あつ 秋あき 冬ふゆ

四方 東ひがし 西にし 南みなみ 北きた

五色 青あを 黄き 赤あか 白しろ 黒くろ

第一課

人子

人の子たるものハ よく おやの をし

へを まもり よき人

と たらんとを つと

むべし。

第二課

山川

大の川のみおもそハ

かの山に あり。 かの



山のゆきとけて この川のみつませり。

第三課

大。小。

つきよ 大小あり。三十一にちのつきを  
大といひ。三十にちのつきを 小と  
いふ。 二ぐさりのみハ 二十八ふちも  
くハ 二十九にちあり。二十九ふちの  
ときハ うるふつきと いふ。

第四課

日。月。

日ハ ひるを てらし 月ハ よるを  
てらひ。 日のひかりあるあひだを ひる  
と いひ。 日のひかりあきあひだを よ  
るといふ。

第五課

火。水。

火ハ ものを やき くらきを てらひ。  
水ハ ものを うるほし また もの



を きよむ。 火と水と。 人げんよか  
くべからざるものなり。

第六課 木土。

己がくにふて。 木ふて いへを つく  
り。 土よて かべを ぬる。 木と土との  
もちひかた また はおちだ ひろし。

第七課 父母。

をとこおやを 父と いひ。 をんおや  
を 母と いふ。 父母のめぐみの やま  
よりも たかく うみよりも ふかし。

第八課 犬牛。

犬の よく いへを まもり。 牛の よ  
くものを えこぶ。 犬の 人のめぐみ  
を 己をれど。 牛のちゝの からだのや  
しなひと ある。

第九課 王公。



目みて

もの

み

耳にて

く。に。の。か。う。ら。を。 み。か。  
ぞ。と。 い。ひ。 ま。た。 王。  
と。も。 い。ふ。 そ。の。け。ら。  
い。ま。て。 く。ら。ゐ。の。も。つ。  
と。も。た。か。き。人。を。 公。と。  
い。ふ。な。り。

第十課

目。耳。

きく。人のみるときくによりて  
ち  
ゑを うるあり。

第十一課

布皮。

きぬもめん。布あどの 人のきものとな  
し。さむさを 志のぐふ もちふ。さむ  
さのきびしきところにてい けだもの、  
皮を もちふ。けだもの、皮の きぬも  
めんあどよりい あたゝかあり。

第十二課

可之。

人 一たび よむときのおのれ 之を  
めらび よむ可く。人 もらびすれ  
ば おのれ 之を 千たびを可く。

第十三課

口舌。

口にて ものを いひ。 舌よて ものを  
あぢえふ。

口の 舌はひのかど。 舌の 舌はひ

のぬ。つゝ志むべし。

第十四課

天。地。

人のいたゞくところを 天と いひ。人  
の ふむところを 地と いふ。 天の  
ひろくして かぎりなく。 地の ひろく  
といへども かぎりあり。

第十五課

主。奴。

ひとを つうふものを 主と いひ。 奴

とよ つかをるゝものを 奴といふ。  
主の 奴を めぐみ。 奴の 主を うや  
まふべし。

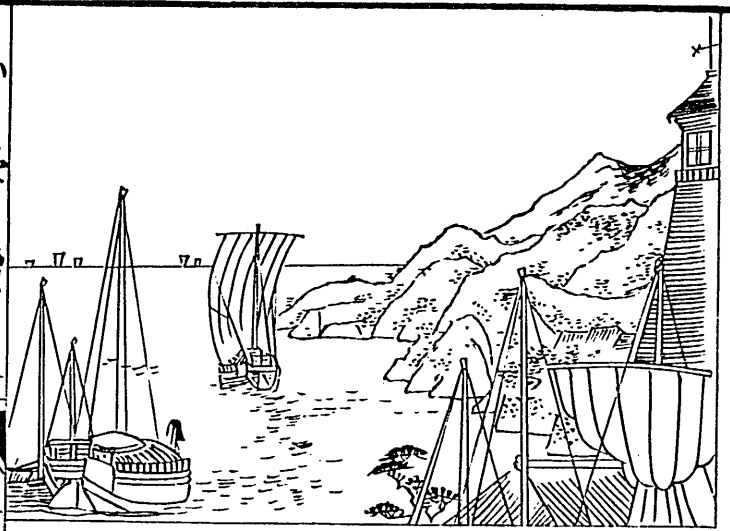
第十六課

冬。氷。

冬の 一ねんのうち もつともさむき志  
せうふて 木のさの おち。 水の 氷と  
ありて けしき となはだ ものさびし。

第十七課

又。有。



よのおかふ かゝこき人 有り。又 お

ろかなる人 有り。つ

とめて まあぶときい

かゝこき人と あるべし。

第十八課

舟帆。

おのみあそにハ 舟の

でより おほし。いつ

るときハ 帆を 阿げ。

以るときは帆をおろす。

第十九課

正交。

正しき人とえらんでとるとすべし。  
正しからざる人に交はるときは  
ざさひおろし。

第二十課

多少。

多きをうるよの少きよりおろすべし。  
たかきとのなるふひひくきより  
すべし。みだりに多きとたかきとを  
のぞむべからず。

第二十一課

上。中。下。

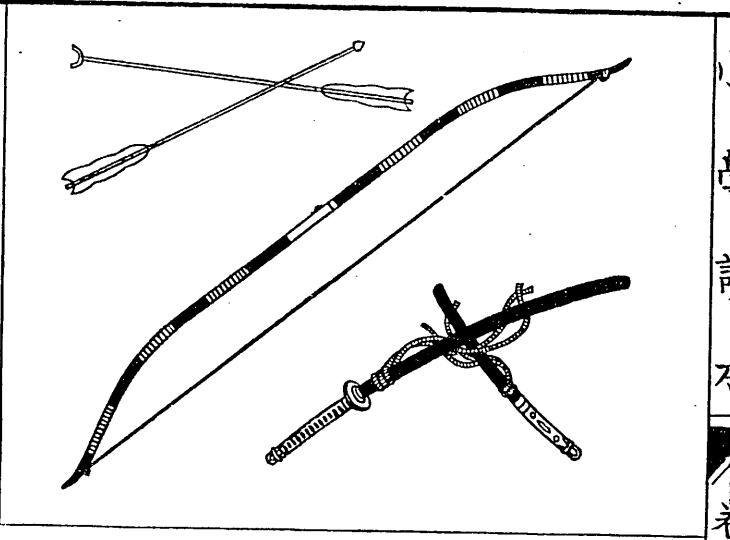
一ヶ月のうちおどめの十日を  
上志ゆんと  
いひ。つぎの十日を  
中志ゆんと  
いひ。のちの十日を  
下志ゆんと  
いふ。

第二十二課

弓。矢。刀。

弓。矢。刀。のむかしさむらひのいくさだ





うが。ありしが。ひま  
 の。あきさ。まてい  
 もつむら。てつはうを  
 もちふ。

第廿三課

本。文字。

文字を。忘らざれば  
 本をよむと。あたはず。

本をよまざれば。人よ。ひやりめら  
 る。ゆるゑよ。ひとけあきもの。文字を  
 まなぶを。だひいちのつとめと。すべし。

第廿四課

内。外。出。

内ふ。あるとき。父母に。志たがひ。  
 よく。そのをへせ。まもり。外よ。出  
 づるとき。まづ。そのゆるしと。うく  
 べし。

第廿五課

左。右。方。

あさ 日の 出づる方よ むあひて たつ  
ときひ その右を みあみと いひ。左  
を きたと いふ。 そのまへひ ひがし  
にして そのうしろひ よしなり。

第廿六課

玉。石。光。

玉も みがうざれば 光おく 石も み  
がけば 光を まあつとあり。 まなむぎ  
る人ひ ひかりあき石かまらの おとし。

第廿七課

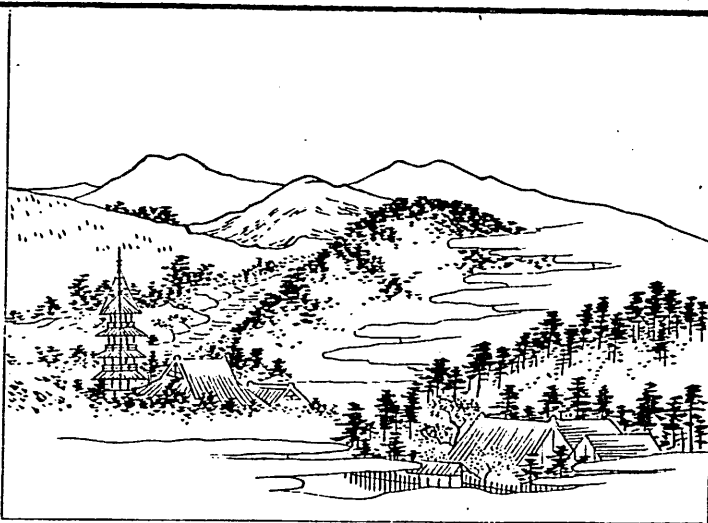
老。幼。年。

幼年のときに まあむざれば 老年ふ  
いたりて かからば くゆるとあり。 幼  
きものひ 老いたる人を うやまふと  
つねのみちとす。

第廿八課

寺。瓦。宅。

山のふもとに たかき瓦ぶきのやねの  
みゆるひ 寺なり。 土あたの土かげよ



みゆるの わが宅なり。

第廿九課 勿好向。

人の たがひに 志ん  
せつを つくし。 おの  
まの 好まざるを  
人に 向ひて おまを  
勿あれ。 おま 人に

あいせらるるみちなり。

第三十課 肌。白。色。

せいやうの人い その肌 となをだ 白  
し。 以んぞ。あふりうなどの人い その  
色 はかまご とろし。

第三十一課 功名。千。年。

そよとみひでよしの をまりのくよの以  
やしき人をれども つひに くろんむく  
のくらゐよ のなきり。 おれぞ 功名を

千年に つたふるものと いふべき。

第三十二課

名山。大川。

もるがのふと。志おのゝあさまのぶときハ  
みお 名山にして。 志もほけのそねが  
は。やまゝろのよどぶそのぶときえ みお  
大川なり。

第三十三課

丈。尺。寸。分。

丈。尺。寸。分。ハ ものいたけを とかるとな  
へにして。 十分を 一寸と いひ。 十寸  
を 一尺と いひ。 十尺を 一丈と い  
ふ。

第三十四課

石。斗。升。合。

まをハ ちめ。さけ。おどを とかるたうぐ  
にして。 一合まに。一升まに。一斗まに あ  
り。 十合を 一升と いひ。 十升を 一  
斗と いひ。 十斗を 一石と いふ。

第三十五課

死。生。吉。凶。

生あるものを みだりに 去るすべから  
ず。死したるものの 去たゞび 生きん。  
生ハ 吉にして 死ハ 凶なり。吉ハ  
よろこぶべく 凶ハ かなしむべし。

第三十六課

古。今。代。世。

古へ 志んむてんわう。このくにを ひ  
らきたまひより 今にいたるまで か



くおくも 百二十三代  
のみあど ひきつゝま  
世を 志ろしめす。  
まふとに せかひふ  
ためしなき ことなり。

小學讀本卷之一終

K120.8

小學叢書 卷之一

明治十八年八月廿五日版權免許

同治二十年九月出版

同治二十年二月十五日再版御届

同治二十年二月出版

定價全銀

編者兼  
出版人

東京府平民

井上蘇吉

東京神田區裏神保町壹番地

東京神田區裏神保町壹番地

澤屋蘇吉

發兌書肆

同日本橋區吉川町六番地

島屋一介

賣

東京日本橋通三丁目

丸善書店

同本町三丁目

金港堂

同銀座四丁目

博聞社

捌

同南傳馬町壹丁目

叢書閣

大阪備後町

梅原龜七

所

同心齋橋筋北久壽町

叢書閣

京都河原町通二条下ル

大黒屋書舖